悩まない心をつくる人生講義

チーグアン・ジャオ（趙啓光）　訳＝町田晶

第3回

無不為

（本編第6章より）

> 道は「無為」と「無不為」のあいだにある。「無為」を通して「無不為」を実現しよう。

老子は「無為」と「無不為」のあいだに「而」という字を使っている。中国語の「而」というのは「しかし」あるいは「しかも」という意味だが、「その結果」という意味ではない。つまり「無為」と「無不為」の間に因果関係はない。

二千五百年も前に老子が発した「無為」と「無不為」の思想はたんに我々の考えを変えてしまうだけでなく、我々が生活のなかで演じる役割をも変えてしまう。我々は「無為」によってあらゆることが自然に実現されるのを待っている消極的な存在ではなく、みずからの人生の主体である。「無為」と「不無為」をともに実践するのだ。

道は「無為」と「無不為」のあいだにある。「無為」を通して「無不為」を実現しよう。道は自然に従っている。だから人は道に従えば、自然に反するようなことをするはずがない。「無不為」をよく理解するため、物理の不確定性原理を参考にしてみよう。スティーブン・ホーキング氏は言う。（注1）

宇宙のエネルギー総量はゼロだ。宇宙内の物質は正のエネルギーによってできており、引力によってみな互いにひっぱりあっている。一方、引力場には負のエネルギーがあり、この負のエネルギーはちょうど同じだけ正のエネルギーを打ち消すので宇宙のエネルギー総量はゼロとなる。ゼロの二倍はゼロである。正の物質エネルギーと負の引力エネルギーは同時に倍増するので、このエネルギーのバランスが壊れることはない。宇宙が膨張してその体積を倍増させてゆく時、正の物質エネルギーも負の引力エネルギーも倍増するので全体のエネルギー総量はゼロのままである。これはまさにアラン・グース氏の言う「無料ランチなんてないってみんな言うけど、宇宙はまさに究極の無料ランチだ」。また、老子が「万物は内に陰と陽のふたつの対立する力をふくみ、陰と陽は気のなかで統一されている」（注2）と言うのも同じことである。

正と負は打ち消し合うが、無為と無不為の境界は不確定性原理のようにぼんやりしている。不確定性原理によれば、人は粒子の正確な位置と速度を同時に知ることはできない。その一方を厳密に確定すればするほど、もう一方は逆にあいまいになってしまう。絶対の「無」や絶対の否定は存在しない。無のなかに有があり、有のなかに無がある。絶対の「無為」もまた存在しない。「為す」と「為さず」の境い目、「無為」と「無不為」の境い目はぼんやりしている。我々は「無為」と「無不為」のあいだ、有用と無用のあいだを旅するのだ。

チーグアン・ジャオ　北京出身。カールトン・カレッジ教授、同済大学特別招聘教授、清華大学客員研究員などを歴任。中国社会科学院大学院で英米文学修士号、マサチューセッツ大学で比較文学博士号取得。著作に "A Study of Dragon, East and West"、"Do Nothing & Do Everything"、『古道新理』、『老子的智慧』、『世路心程』、『客舟聴雨』、『コンラッド小説選』など。2015年3月、マイアミでの遊泳中の事故により永眠。ミネソタ州の『スター・トリビューン』紙で「北極オーロラの星」と評価された。

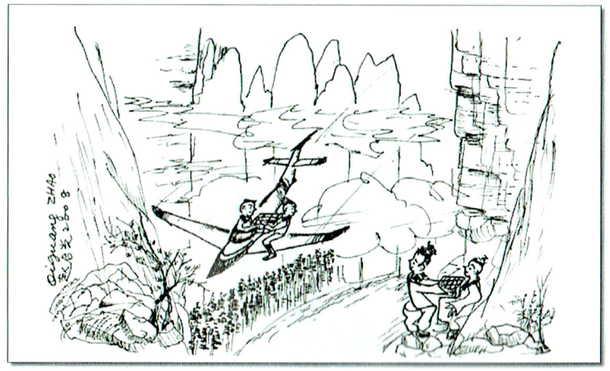
町田晶　日中翻訳学院修了。東北大学文学部東洋日本美術史専攻、東北大学大学院文学研究科中国哲学専攻。学生時代の一人旅で中国文化の奥深さと中国人の温かさに触れたことから本格的に中国語を学ぶ。翻訳得意分野は思想、哲学、文学、食文化等。

我々の「無為」と「無不為」についての認識

荘子は山を下り友人の家をたずねた。友人はたいそう喜び、使用人にガチョウを殺してご馳走するように言いつけた。使用人は言った。「一羽は鳴くガチョウ、もう一羽は鳴かないガチョウ、どちらにしますか」。友人は答えた。「鳴かない方にしよう」

翌日、弟子は荘子にたずねた。「先日見た木は役に立たないおかげで寿命をまっとうすることができました。でも今回は役に立たない方のガチョウが殺されてしまいました。有用と無用、先生はどちらがよいと思いますか」

荘子はほほえんだ。「わたしは有用と無用のあいだにいるよ。役に立つように見えて役立たずだと面倒なことになるよね。それは道とともにある生き方とは違う。ほめられることもなく、けなされることもなく、ある時は龍、そしてある時は蛇、時とともにうつりかわり、一つのことに捉われることがない。ある時は上へ、ある時は下へ、調和しているかどうかで判断しよう。万物の祖とともに流れただよい、ものごとをありのままに捉え、なにかに捉われなければ煩わしいことなどなにもない」（注3）



がけの下で将棋をさすのは無為、飛行しながら将棋をさすのは無不為

すでに述べたように、無為とは弱く、おとなしいものである。しかし、いったんその時が来ればためらうことなく立ち上がろう。それはあくまで一時的なものと認識したうえで、これが無為と無不為のあいだということだ。人生には成功もあれば失敗もある。しかし、ものごとの流れに順応すればなにも恐れる必要はない。最後にはきっとうまくいく、なぜなら人は宇宙の一部なのだから。

（注1）Stephen Hawking, The Theory of Everything (Beverly Hills: New Millennium Press,2002),82

（注2）『道徳経』第四十二章より

（注3）訳注　『荘子』山木第二十より

“パンを手に入れることはもとより大事だが、その美味しさを楽しむことはもっと大事だ”

比較文化学者であるチーグアン・ジャオ氏が、身近な例から老子の人生哲学をわかりやすく解説した一冊。「よりよい老後」のために心身ともに無理を重ねる現代人に向け、老子の教えをもとに、肩の力を抜いて自然に生きることを勧める。

2016年4月、日本僑報社刊